

# 基調講演「広めよう！国際看護ティーチングメソッド —教育は、創造だ—」

日本国際看護学会第6回学術集会会長  
河原 宣子（京都橘大学）

「国際看護の授業担当になった」とき、様々な思いや考えが頭に浮かぶ。

シラバスをどうやって作成しようか、膨大な内容から何を精選して伝えようか、海外での看護活動経験は必要だろうか、学生に興味をもってもらうにはどんな工夫があるだろうか、などなどである。

保健師助産師看護師国家試験出題基準（令和5年版, 厚生労働省医政局看護課）の看護師国家試験出題基準、看護の統合と実践の大項目3. 国際化と看護に示されているように、国際看護に関する学習は、わが国における看護師国家試験受験資格を得るために必須の内容となっている。したがって、現在、各養成機関の教育課程に必ず組み込まれている。看護職ならば誰でも、国際看護の素養を持つ時代となった。

とすると、前述した思いや考えについて、さらに悩み始めるのである。

さて、看護基礎教育や看護現任教育で用いられる教育方法は実に多様である。特に、「アクティブラーニング：伝統的な教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称（文部科学省, 2007）」という方法が普及してからは、学生や受講生が講義内容を聴くこと以上に、授業に積極的に関与する機会が増え、数十種類に及ぶアクティブラーニング技法が教育現場では展開されている。

ただし、教育効果が高い教育プログラムを作るためには、インストラクショナルデザイン（学習を支援するための諸活動を計画すること）が重要であると言われている。インストラクションは「目的をもって学習を促進させるために行うことすべて（ランゲルース他, 2016）」であり、インストラクションはティーチング（誰かが学習者に向かって講義をしたり実施したりすること, ガニエ他, 2007）を包含している。

第6回学術集会では、この「ティーチング」に焦点を当てた。

国際看護を効果的かつ効率的に教育するための設計図を作るために、どのようなティーチングメソッドを用いればいいだろうか？という視座のもと、様々に工夫を凝らしたメソッドを学べるプログラムとした。たくさんの「ティーチング」の引き出しを手に入れて、魅力的な国際看護教育が全国各地で実施できれば、こんな楽しいことはない、と思う。

混沌とした激動の時代において、国際看護活動を担う人材育成とその教育の質保証の重要性を伝えたい。

引用・参考文献・資料

- 西野毅朗（2018）. THE アクティブラーニング, 京都橘大学教育開発支援センター研修会資料.  
C.M. ランゲルース他（2016）. インストラクショナルデザインの理論とモデル, 北大路書房.  
R.M. ガニエ他（2007）. インストラクショナルデザインの原理, 北大路書房  
中井俊樹編著（2014）. 看護現場で使える教育学の理論と技法. MC メディカ出版